

土に帰る



江別医師会
江別市立病院

富山光広

冬の除雪、夏の除草や剪定、秋の枯れ葉の処理、冬囲いやその撤去まで、毎週末ごとにある何がしかの作業が徐々に面倒になり一軒家からマンションに移り住んだ。冬に引っ越したが、やはり除雪がなくて快適だった。

春になった。

そろそろ冬囲いはずす時期だなと思った頃には妙に土が恋しくなっている自分に気がついた。畑くらい借りられるのではないだろうか？

市民農園を探した。電話をかけると契約のために自宅に来いという。日曜日であった。

5×10mの区画はゴールデンウィーク明けから11月までの1年契約で1万円であった。「鹿とかアライグマがね…」ということばを聞いたような気がするが軽く受け止めていた。土が恋しいと思ってから数時間で土いじりが約束された還暦近い小生は多少舞い上がっていたのだろう。

春

ゴールデンウィーク明けから開園と聞いていたが、晴天の休みの後半に市民農園を覗いて見るとすでに大勢の農夫が鍬をふるっていた。のんびりと土をいじりたいという本来の目的がかすみ、なにか遅れをとったような気分が苛まれた。還暦近くになって道に迷わず天命も知ったはずであるが、いくつになってもダメなところは変わらない。

うろ覚えの知識を掘り起こし、石灰を入れ、元肥を施す。種をまき不織布をかける。虫の好きそうな葉物にはトンネル状に防虫網をかける。

不織布の下で枝豆やトウキビの芽が出てきたが、成長するにつけ苗はひん曲がる。早々に不織布はお役御免となった。

防虫網の中、葉物は成長するが雑草も成長する。葉は使わないと決めているので網を外して除草し、また網をかける。ベビーリーフは1ヵ月で収穫を迎えたためやはり網を外し収穫し、また網をかける。いつの間にか網の中に大量のコバエを発見する。防虫網はむしろコバエを閉じ込めていた。

防虫網もお役御免となった。

夏

ベビーリーフはメキメキと成長をとげ、採っても食べきれなくなった。ベビーリーフはベビーでなくなっていた。

まあいい。いっぱいできていることには変わりな

い。やがてトウキビと枝豆もそれなりの形になってきた。しめしめ意外とちゃんとできている。こんなにトウキビと枝豆がいっぺんにできたらとても食いきれるわけがない、困ったことだとやけていたのはちょっと真夏のピークが過ぎかかるころである。

そんなころあいつがやってきた。

鹿である。

みごとに枝豆の葉だけを食べていった。たしかに周囲では畑を囲むように網を張っていたのだが、動物の足跡も見あたらなかったのも完全になめきっていた。あわてて杭を打ち込み、網を張ってみた。なぜ周りはまだ作物もできていない春先から網を張っていたのかが身にしみてわかった。

猛烈に暑い。

農作業一年生は杭打ち網張りの作業を真夏にやるものじゃないことを思い知らされた。

しかし、その苦労をあざ笑うかのように2週間またあいつはやってきた。

せっかく立てた柵を押し倒し、網を蹴破って侵入した形跡がある。そして今度は葉ではなくトウキビと枝豆の実を食べていった。鹿はトウキビを押し倒し、もぎ取った実の先端から1/3程度までを次々と食べ散らかしていた。枝豆もちょうどふくらんだものだけ食べられている。おそらく前ははまだ実が熟していないと判断して枝豆の葉っぱだけを食べていったのだ。

やるな鹿。

スカスカの実だけが残った枝豆と運良く乱獲を免れたとうもろこし2本を持ち帰った。

「あら、前に言っていたより随分少ないのね」

妻の何気ない言葉が追い打ちをかける。

8月下旬、トウキビと枝豆の抜けた畑に、めげずに白菜の種を植えた。前後左右にむちゃくちゃでかい葉を展開しながら中央に葉が集まり始め、見慣れた形になってくる。白菜に対しては無情な無銭飲食者は現れなかった。

秋

今日は鍋にしようという話になり、ちょうどいい頃合いだと白菜を収穫するため畑に出掛けた。

「けっこうできているんだよ白菜、鍋で余った分は塩漬けだね」

といつつ車に乗った15分後、目の前に現れた光景に呆然とした。畑全面にトラクターが入り、土はすべて掘り返され、今年の畑が終了したことを物語っていた。よく考えたら先週が10月最後の週末であったのだ。

残念、白菜は土に帰っていた。

近所で1/4カットの白菜を買って帰った。

「あら、なぜ1/4カットになっちゃったの？」

妻へ答える代わりに苦いビールを飲み干し、ひそかにリベンジを誓った。